

【S.3.1】

$f(x) = x^3 - 10x^2 + kx$ ($k > 0$) とする.

- (1) 方程式 $f(x) = 0$ が 3 個の実数解を持ち, それらが互いに 1 以上離れているための k の条件を求めよ.
 (2) (1) の条件を満たす k で, 曲線 $y = f(x)$ と x 軸によって囲まれる図形の面積を最小にするものを求めよ.

【解答】

(1) $f(x) = x(x^2 - 10x + k)$ の第 2 因数

$$x^2 - 10x + k = 0 \quad \dots\dots(1.1)$$

の解を $x = x_1, x_2$ ($x_1 < x_2$) と表すとき,

$$x_1 + x_2 = 10 \wedge x_1 x_2 = k (> 0) \quad \dots\dots(1.2)$$

より, $x_1 > 0 \wedge x_2 > 0$ である.

更に, 題意の条件 (各解の距離が 1 以上) より,
 $f(x)$ のグラフ (上図) も考慮して,

$$\begin{cases} (\text{判別式: } D) > 0 & \dots\dots(1.3) \\ f(1) \geq 0 \wedge x_2 - x_1 \geq 1 & \dots\dots(1.4) \end{cases}$$

(1.3) より,

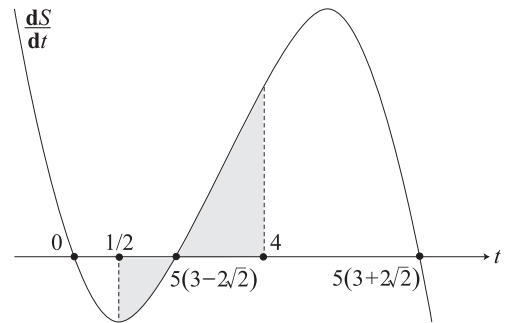
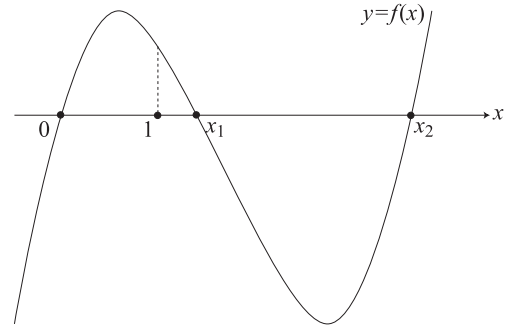
$$D/4 > 0 \iff k < 25 \quad \dots\dots(1.5)$$

(1.4) より,

$$\begin{aligned} k \geq 9 \wedge (x_2 - x_1)^2 &\geq 1 \\ \iff k \geq 9 \wedge (x_1 + x_2)^2 - 4x_1 x_2 &\geq 1 \\ \iff k \geq 9 \wedge k \leq \frac{99}{4} &\dots\dots(1.6) \end{aligned}$$

(1.5), (1.6) より,

$$9 \leq k \leq \frac{99}{4} \quad \dots\dots(1.7)$$



(2) 題意の面積を S で表す.

$$S = \int_0^{x_1} f(x) \, dx - \int_{x_1}^{x_2} f(x) \, dx = [F(x)]_0^{x_1} - [F(x)]_{x_1}^{x_2} = 2F(x_1) - F(x_2) \quad \dots\dots(1.8)$$

$F(x) = \frac{1}{4}x^4 - \frac{10}{3}x^3 + \frac{1}{2}kx^2$ であるから,

$$S = \frac{1}{2}x_1^4 - \frac{20}{3}x_1^3 + kx_1^2 - \left\{ \frac{1}{4}x_2^4 - \frac{10}{3}x_2^3 - \frac{1}{2}kx_2^2 \right\} \quad \dots\dots(1.9)$$

ここで, $x_1 = 5 - t$, $x_2 = 5 + t$ ($t > 0$) と置けば,

$$k = x_1x_2 = (5 - t)(5 + t) = 25 - t^2 \quad \dots\dots(1.10)$$

であるから,

$$\begin{aligned} S &= \frac{1}{2}(5 - t)^4 - \frac{20}{3}(5 - t)^3 + (5 - t)(5 + t) \times (5 - t)^2 \\ &\quad - \left\{ \frac{1}{4}(5 + t)^4 - \frac{10}{3}(5 + t)^3 + \frac{1}{2}(5 - t)(5 + t) \times (5 + t)^2 \right\} \\ &= \frac{1}{6}(5 - t)^3(3t + 5) + \frac{1}{12}(5 + t)^3(3t - 5) \quad \dots\dots(1.11) \end{aligned}$$

(1.11) を t で微分して,

$$\begin{aligned} \frac{dS}{dt} &= -\frac{1}{2}(5 - t)^2(3t + 5) + \frac{1}{2}(5 - t)^3 + \frac{1}{4}(5 + t)^2(3t - 5) + \frac{1}{4}(5 + t)^3 \\ &= -t(t^2 - 30t + 25) = -t(t - 5(3 - 2\sqrt{2}))(t - 5(3 + 2\sqrt{2})) \quad \dots\dots(1.12) \end{aligned}$$

(1) の結果から,

$$\begin{aligned} 9 \leq k \leq \frac{99}{4} \wedge k = 25 - t^2 &\iff 9 \leq 25 - t^2 \leq \frac{99}{4} \\ &\iff \frac{1}{4} \leq t^2 \leq 16 \iff \frac{1}{2} \leq t \leq 4 \quad (\because t > 0) \quad \dots\dots(1.13) \end{aligned}$$

(1.13) において, $\frac{dS}{dt} = 0$ を満たす t は,

$$t = 5(3 - 2\sqrt{2}) \quad \dots\dots(1.14)$$

であり (前頁下図), (1.14) において S は極小かつ最小となる.

$$\therefore k = 25 - 25(3 - 2\sqrt{2})^2 = 100(3\sqrt{2} - 4) \quad \dots\dots(1.15)$$

【S.3.2】

実数列 $\{a_n\}$ が次の漸化式で定義されている.

$$a_{n+2} = a_n - a_{n+1} \quad (n = 1, 2, 3, \dots) \quad \dots\dots(2.1)$$

- (1) $a_1 = 26, a_2 = 16$ のとき, $a_n a_{n+1} < 0$ となる正整数 n の最小値を求めよ.
- (2) $a_k = a_{k+1} = 0$ となるような正整数 k が存在するとき, $a_1 = a_2 = 0$ であることを示せ.
- (3) a_1, a_2 が異なる整数のとき, $a_k a_{k+1} < 0$ となるような正整数 k が存在することを示せ.

【解答】

(1) 漸化式 (2.1) より,

n	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	...
a_n	26	16	10	6	4	2	2	0	2	-2	...

表により, $a_n a_{n+1} < 0$ となる最小の n は, $n = 9$ である.

(2) 漸化式 (2.1) より,

$$a_n = a_{n+1} + a_{n+2} \quad (n = 1, 2, 3, \dots) \quad \dots\dots(2.2)$$

そこで, ある正整数 k に対して, $a_{k+1} = a_k = 0$ を仮定する.

このとき, (2.2) より $a_{k-1} = 0$ が導かれ, 同様に, $a_k = a_{k-1} = 0$ から $a_{k-2} = 0$ が導かれる.

これを繰り返すことにより, $a_2 = a_1 = 0$ が導かれる.

(3) $\bullet a_n \neq 0 (\forall n)$ の場合;

$$a_n a_{n+1} = a_{n+1}^2 + a_{n+1} a_{n+2} \quad (\because (2.2)) \iff a_{n+1} a_{n+2} - a_n a_{n+1} = -a_{n+1}^2 < 0 \quad (\because a_{n+1} \neq 0) \quad \dots\dots(2.3)$$

これは数列 $\{a_n a_{n+1}\}$ が単調減少列であることを意味する. 即ち,

$$a_1 a_2 > a_2 a_3 > \dots > a_n a_{n+1} > a_{n+1} a_{n+2} > \dots \quad \dots\dots(2.4)$$

更に, 漸化式 (2.1) と a_1, a_2 が整数であることから, 任意の番号 n に対して a_n は整数となり, $a_1 a_2$ が如何なる正整数であっても単調減少な整数列 $\{a_n a_{n+1}\}$ のある番号から先は必ず負となる. 従って, $a_k a_{k+1} < 0$ なる番号 k が存在することになり題意は成立する.

$\bullet a_n = 0 \wedge a_{n+1} \neq 0$ なる番号 n が存在する場合;

$$a_{n+2} = a_n - a_{n+1} = -a_{n+1} \iff a_{n+2} = -a_{n+1} \quad \dots\dots(2.5)$$

これは連続する 2 項が異符号であることを意味し, $a_{n+1} a_{n+2} < 0$ なる番号 n が存在することになる.

即ち, この場合も題意は成立する.

$\bullet a_n = a_{n+1} = 0$ なる番号 n が存在する場合;

(2) の結論 $a_1 = a_2 = 0$ より, a_1, a_2 が異なる整数という条件に反するので, この場合は考慮しなくてよい.

以上により題意は示された.

【S.3.3】

1, 2, ..., n の数字を書いた n 枚のカードの組を 3 組用意する.

3 人がそれぞれ 1 組ずつ持ち, 各人はその中から無作為に 1 枚のカードを抜き出し, そのカードの数によって各人の得点を次のように 2 通りに定める.

最大数を出した人が 1 人だけのとき, その人の得点は,

$$(1) \text{ 自分が出した数} \quad (2) \text{ 他の 2 人が出した数の和}$$

として, 他の 2 人の得点は (1), (2) いずれの場合も 0 とする.

また, 最大数を出した人が 2 人以上のとき, 3 人の得点はすべて 0 とする.

このとき, 得点の期待値を (1), (2) のそれぞれの場合について求めよ.

【解答】

(1) の場合; 勝者が k 点で勝つとき, 他の 2 人は k-1 点以下であるので, その確率は,

$$\frac{1}{n} \times \frac{k-1}{n} \times \frac{k-1}{n} = \frac{(k-1)^2}{n^3} \quad (k=2, 3, \dots, n) \quad \dots\dots(3.1)$$

求める期待値を E_1 で表すと,

$$E_1 = \sum_{k=2}^n k \times \frac{(k-1)^2}{n^3} = \frac{1}{n^3} \sum_{k=2}^n k(k-1)^2 \quad \dots\dots(3.2)$$

ここで,

$$\begin{aligned} k(k-1)^2 &= (k-1)k(k+1) - 2(k-1)k \\ &= \frac{1}{4} \{ (k-1)k(k+1)(k+2) - (k-2)(k-1)k(k+1) \} \\ &\quad - \frac{2}{3} \{ (k-1)k(k+1) - (k-2)(k-1)k \} \quad \dots\dots(3.3) \end{aligned}$$

を用いて,

$$E_1 = \frac{1}{n^3} \left\{ \frac{1}{4} (n-1)n(n+1)(n+2) - \frac{2}{3} (n-1)n(n+1) \right\} = \frac{1}{12n^3} (n-1)n(n+1)(3n-2) \quad \dots\dots(3.4)$$

(2) の場合; 勝者が k 点, 他の 2 人の得点がそれぞれ i, j 点のとき, 求める期待値を E_2 で表すと,

$$E_2 = \sum_{k=2}^n \left(\sum_{i=1}^{k-1} \sum_{j=1}^{k-1} (i+j) \right) \frac{1}{n^3} = \frac{1}{n^3} \sum_{k=2}^n \sum_{i=1}^{k-1} \sum_{j=1}^{k-1} (j+j) \quad \dots\dots(3.5)$$

ここで,

$$\sum_{i=1}^{k-1} \sum_{j=1}^{k-1} (i+j) = \sum_{i=1}^{k-1} \left((k-1)i + \frac{(k-1)k}{2} \right) = (k-1) \times \frac{(k-1)k}{2} + \frac{(k-1)k}{2} \times (k-1) = k(k-1)^2 \quad \dots\dots(3.6)$$

(3.6) を (3.5) に代入して,

$$E_2 = \frac{1}{n^3} \sum_{k=2}^n k(k-1)^2 = \frac{1}{12n^3} (n-1)n(n+1)(3n-2) (= E_1) \quad \dots\dots(3.7)$$

【S.3.4】

三角形 OAB の辺 OA, OB (両端の点は除く) 上をそれぞれ動点 P, Q が次の式を満たしながら動いている.

$$2(\vec{OP} \cdot \vec{OB} + \vec{OQ} \cdot \vec{OA}) = 3\vec{OA} \cdot \vec{OB} \quad \dots\dots(4.1)$$

このとき, 三角形 OPQ の重心 G の動き得る領域を図示せよ.

【解答】

題意より,

$$\vec{OP} = x\vec{OA}, \quad \vec{OQ} = y\vec{OB} \quad (0 < x < 1, 0 < y < 1) \quad \dots\dots(4.2)$$

と置き, これを (4.1) に代入して,

$$(2x + 2y - 3)\vec{OA} \cdot \vec{OB} = 0 \quad \dots\dots(4.3)$$

(4.3) より,

$$\angle AOB = 90^\circ \vee 2x + 2y = 3 \quad \dots\dots(4.4)$$

ここで, 三角形 OPQ の重心 G に対して,

$$\vec{OG} = \frac{1}{3}(\vec{OP} + \vec{OQ}) = \frac{x}{3}\vec{OA} + \frac{y}{3}\vec{OB} \quad \dots\dots(4.5)$$

と表されるので, (4.4) によって場合分けして,

● $\angle AOB = 90^\circ$ の場合;

$x/3 = s, y/3 = t$ と置けば,

$$\vec{OG} = s\vec{OA} + t\vec{OB} \quad \left(0 < s < \frac{1}{3}, 0 < t < \frac{1}{3}\right) \quad \dots\dots(4.6)$$

ここで, OA を 1 : 2 に内分する点を A', OB を 1 : 2 に内分する点を B', 三角形 OAB の重心を G' とすれば,

(4.6) より, G は長方形 OA'G'B' の (周を含まない) 内部の領域を動く. (左図影付部)

● $\angle AOB \neq 90^\circ$ の場合;

$2x/3 = s, 2y/3 = t$ と置けば,

$$\vec{OG} = s \times \frac{1}{2}\vec{OA} + t \times \frac{1}{2}\vec{OB} \quad \left(s + t = 1, 0 < s < \frac{2}{3}, 0 < t < \frac{2}{3}\right) \quad \dots\dots(4.7)$$

ここで, OA の中点を M, OB の中点を N とすれば,

(4.7) より, G は平行四辺形 OA'G'B' の (周を含まない) 内部の線分 MN 上を動く. (右図太線部)

